

屋根のネットワーク

network of roof

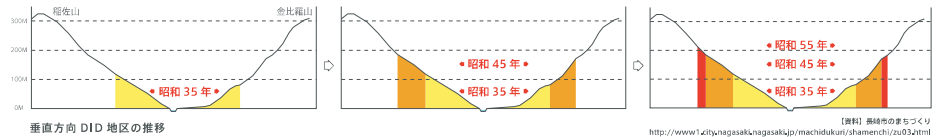


NETWORK OF ROOF



○斜面都市の重要性

急峻な斜面地に形成された都市を斜面都市と呼ぶ。この斜面都市は日本国内に12都市が存在し、総人口比3.8%の約500万人の人々が生活をしている。これは非常に重要なことである。九州においても、長崎市・佐世保市・北九州市・別府市が斜面都市として認定されており、九州にとっても斜面都市は深い関わりがあると言える。



垂直方向 DID 地区の推移

【資料】長崎市のまちづくり
http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/machidukuri/shamenchu/zou3.html

○斜面都市・長崎の課題

長崎市は日本屈指の斜面都市であり、斜面市街地比率は国内第二位、斜面市街地面積は国内第一である。本提案では、長崎市をケーススタディとして斜面都市の課題を考察する。

長崎市における斜面都市形成の歴史は、明治期に外国人が眺望を好んで斜面地に居留地を形成したことに始まる。その後一気に情勢が変わるのが高度経済成長期である。都市部への人口流入と核家族化が進んだ結果、昭和30年代から50代にかけて斜面地に急激かつ無計画に居住地が造成されたのである。これが現在の長崎市の斜面都市景観を形作っている。

こうして形成された斜面都市ではいま、①公共空間の不足による劣悪な居住環境②未発達な交通インフラ③急激な高齢化といった、様々な問題点が顕在化している。こうした問題は複雑に絡み合いながら、斜面都市での生活を不便で危険なものにしている。

○提案：屋根のネットワーク

斜面都市における諸問題を解決できるアイデアを提案する。斜面都市において住宅更新を行う際に、屋根部分を公共空間として設計し、屋根レベルの街路と接続することで地域に開放するという提案である。ここで重要なことは、行政に頼りがちな斜面都市の住環境整備を住民が主体的に行い、それを行政がサポートするという「まちづくり」の発想である。行政は公共空間の管理運営を住宅所有者に委ねるとともに、容積率の緩和などのバックアップを行うのである。こうして創出された公共空間は、児童公園やイベント広場、ヘリポートなどに活用され居住環境の向上に貢献すると共に、絶景を楽しめる空間として、斜面都市に新たな価値を創出するであろう。

